

小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 30

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	メタボリックシンドローム対策事業(壮年期男性のためのメタボ予防教室)		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	④ その他		<4> 継続評価 新規評価の別
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	10 みんなの「絆」を大切に安全・安心で健康なくらしづくり	<6> 担当部(局)
	中項目	10-4 みんなが健康で安心できる暮らし	<7> 担当所属
	小項目	10-4-1 保健・健康づくり・地域医療	<8> 担当係等
	施策	疾病構造の変化に対応した支援の充実	
<9> 根拠法令・計画等	健康増進法	<10> 関連・類似事業	
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目
<13> 実施期間	H30 年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	4 款 1 項 2 目
<15> 実施手法	直営	「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	壮年期からのメタボリックシンドローム予防及び改善を図るため、運動や栄養等に関する情報提供や運動方法の実技を行う教室を開催する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	40～50歳代の特定健診受診率が低く、60歳代以降の健診結果有所見率では、国や県と比べメタボリックシンドローム該当者、予備群の割合が高い。該当者・予備軍は男性が7割以上を占めていることから、若いうちから健診を受診し健康について関心を持ち、生活習慣を改善することで、該当者・予備軍の割合を減らす。							
	<18> 事業・業務の対象	国保に加入している40～50歳代男性で健診未受診者健康に関心が高い40～50歳代男性							
手段	<19> 平成30年度の活動内容	3回1コースの教室の開催。医師、管理栄養士、運動トレーナーによる講話や運動実技、減塩みそ汁の試飲を実施。体組成測定、内臓脂肪測定を実施し自分自身の体の状態を知るとともに、教室参加前後の体の変化を確認。グループワークにて自分の生活の改善の見直しと目標を立案。希望者には教室参加前後の血液検査実施。2回目は市民公開講座とし、ご家族等も参加。							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度 計画 実績	平成30年度 計画 実績 達成率(%)				
	開催回数	回		3	3 100.0%				
成果	<21> 事業・業務の成果	<ul style="list-style-type: none"> 市民に健診の必要性を理解してもらう。 市民に自分自身の体の状態や現状の生活習慣を振り返り、改善した方が良い生活習慣に気づいていただく。 市民に生活を改善するための手段や方法、知識を得てもらう。 市民に生活改善のための取組みを行えるようになっていただく。 							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度 計画 実績	平成30年度 計画 実績 達成率(%)				
	生活習慣のきっかけづくりとなった人の割合	%		100	96 95.8%				
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	参加者数	人		150	78 52.0%			
		コスト実績	単位	平成29年度			平成30年度		
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		事業費等	千円	0	0	1,139	932	81.8%	
		x	国・県補助金	千円			314	137	43.6%
			地方債	千円					
			その他	千円			110	80	72.7%
一般財源	千円								
人件費	千円	0	0	715	715	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,195 ×	7,195 ×	7,146 × 0.1	7,146 × 0.1				
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	4.市民ニーズによるものではない
	有効性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1.妥当である
		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある
	効率性	<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか?	2.中位
<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?		1.向上の余地はある	
公平性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	1.検討可能である	
	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	1.妥当である	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	事業の対象として意図した40～50歳代の年齢層の申し込みが少なく、周知方法や対象者の興味・関心をひく内容の検討が必要である。参加しやすい日時や回数の設定を行う。また、対象者の再検討が必要であるため。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	40～50歳代男性で健診未受診者を主な対象としたが、申し込みが少ない状況であり、周知方法や参加しやすい内容に改善する必要がある。60歳代以降でメタボ該当者・予備軍が増加していること、高齢化社会の中、60歳代でも現役で社会で活躍している状況から、60歳代に対しても生活習慣を改善の必要性や方法を伝えることでメタボ該当者・予備軍を減らすことを見込む。健診を受診している人にも改めて健診受診の大切さや健診結果の活かし方について学んでもらうため、対象者の拡大を図る。		
	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由 40～50歳代の男性の参加を募ることが課題であり、周知方法の検討が必要。60歳代以降のメタボリックシンドローム該当者・予備軍が増加するため、対象者として40～50歳代のみならず、60歳代の段階でも生活習慣の改善に取り組むことができるような働きかけをしていくことが必要。
	<36> 2次評価	所管部長	1.拡大	理由 若い世代から生活習慣改善に取り組むことで、将来的には介護予防にもつながる。医療費適正化の観点からも必要な取組みと考えられる。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<37> 実施計画	対象者を40～60歳代の男性とし、健診未受診だけでなく、健診を受診した方にも参加勧奨を行う。周知方法として、小山市公式のツイッター、フェイスブック、インスタグラム等のSNSを活用。教室は2回1コースとする。対象者の関心をひき参加につながるような講話を行う講師を調整する。管理栄養士、運動トレーナー等による講話や運動実技の実施。体組成測定、内臓脂肪測定の実施。希望者には教室の参加前後に血液検査を実施。			
	<38> 活動・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民が健診の必要性を理解する。 市民が自分自身の体の状態や現状の生活習慣を振り返り、改善した方が良い生活習慣に気づく。 市民が生活を改善するための手段や方法、知識を得る。 市民が生活改善のための取組みを行える。 			
	<39> コスト計画	単位	令和元年度 計画	令和2年度 計画	
	事業費等	千円	1,148	1,148	
		千円	433	433	
		千円	715	715	